

## 【2016年6月 茨城県金融経済概況の解説】

### 茨城県の景気判断を据え置きました ～茨城県経済は、緩やかに回復しつつあります～

みなさん、こんにちは。いつも、このサイトをご覧いただきありがとうございます。私どもでは、茨城県における最新の金融経済情報を提供しております。公表されている指標は実態としては数か月前までのものですが、日銀水戸事務所作成の茨城県金融経済概況公表日の前営業日までに、企業等から聴取した情報も踏まえて判断しております。この紙面では、県内景気判断の背景となった考え方などを、簡潔に、可能な限りわかりやすく解説しますので、どうぞご利用ください。

6月7日に公表しました茨城県金融経済概況では、県内の景気情勢を、生産面に弱い動きがみられるものの、基調的には「緩やかに回復しつつある」として、判断を据え置きました。27か月連続です。

個人消費についてみると、4月の百貨店・スーパー販売額は、2か月振り前年を上回ったほか、乗用車新車登録台数も、4月、5月と2か月連続で前年を上回りました。全国では百貨店・スーパー販売額、乗用車新車登録台数とも前年比マイナスとなるなど、このところやや弱めの指標が出ており、円高、株安によるインバウンド消費の鈍化や消費者マインドへの影響等を指摘する声も聞かれる状況であるのに比べれば、県内消費は、力強さこそ欠けるものの、総じて底堅さを維持しているものとみています。

住宅投資については、3か月振りに前年をやや下回り、全体では持ち直しの動きに一服との評価に変わりはありませんが、持家は5か月連続で前年を上回っており、このところますますの動きを示しています。低金利環境をチャンスと捉え、ハウスメーカーが積極的なセールスを展開していることが一因だとみています。もっとも、政府が消費税率引き上げの延期方針を打ち出していることから、これまで持続してきた持家の着工増の動きに変化がみられないか、今後、注視していきたいと思えます。

公共投資については、先行指標の公共工事請負金額が、4月は、国、市町村が前年比マイナスとなったことから、全体でも3か月振りに前年を下回りました。もっとも、ここ数か月の動きを均してみれば、請負金額の前年比はプラス基調にあるほか、2016年度については、国、県とも前倒し発注を行う方針を固めていることから、公共投資全体では、「下げ止まっている」とみています。

この間、生産については、月々の振れを伴いつつも、新興国経済減速の影響を受けて、

輸出が減少していることから、引き続き弱い動きとなっています。

先行きについては、当面、輸出・生産面に鈍さが残るとみられますが、雇用・所得環境の改善に支えられて個人消費が底堅く推移するほか、企業の設備投資も増加基調であること、公共事業の前倒し発注も寄与することから、国内需要は増加基調を維持するとみています。先進国の景気回復の波及から、いずれ新興国経済も減速した状態から脱していくことで、当地の輸出・生産も持ち直しに向かうという姿をメインシナリオとして考えています。

現在、短観（6月調査）を実施しています。米国の利上げペースをめぐるマーケットの見方の振れ等から、為替が不安定な動きを示し株価も弱目で推移する一方、政府からは、消費税率引き上げの延期方針も打ち出されています。こうした外部環境を受けて、企業マインドはどうか、今年度の収益、設備投資計画はどう修正されるか、丁寧にヒアリングしていきたいと思います。

2016年6月7日  
日本銀行水戸事務所長  
鶴屋 洋一郎